

4. 社会活動などについて

問 15 あなたは、次のような活動をしていますか。次の中から選んでください。
(○はいくつでも)【n=891】

社会活動などへの参加状況については、「いずれも参加していない」が 42.9%で最も高くなっています。参加している活動としては、「自治会・住民自治協議会などの地域活動」が 29.7%、「生涯学習活動、スポーツ活動、趣味や娯楽などのグループ活動」が 18.9%、「PTA・子ども会などの青少年育成活動」が 17.3%で続いています。

前回調査と比較すると、「いずれの社会活動にも参加していない」割合が 6.1 ポイント増加しています。参加している活動をみると、「生涯学習活動・スポーツ活動・趣味や娯楽などのグループ活動」の参加率が 8.3 ポイント減少するなど、6 項目で減少しており、全体として社会活動への参加率は減少傾向にあります。

市民調査と比較すると、「PTA・子ども会などの青少年育成活動」は 11.1 ポイント、「自治会・住民自治協議会などの地域活動」は 6.9 ポイント、「生涯学習活動、スポーツ活動、趣味や娯楽などのグループ活動」は 4.4 ポイント、それぞれ市民を上回っています。

	2024年	2019年
自治会・住民自治協議会などの地域活動	29.7%	34.1%
生涯学習活動、スポーツ活動、趣味や娯楽などのグループ活動	18.9%	27.2%
PTA・子ども会などの青少年育成活動	17.3%	16.4%
青年団体・女性団体・高齢者団体などの活動	5.5%	6.2%
民生委員やボランティアなどの社会活動	4.2%	5.9%
県・市の審議会・委員会の委員	0.4%	0.6%
消費者団体・生活協同組合など消費者活動	0.6%	0.5%
その他の社会活動など	3.0%	3.8%
いずれも参加していない	42.9%	36.8%
無回答	0.0%	1.8%

	市民	市職員
自治会・住民自治協議会などの地域活動	 22.8%	 29.7%
生涯学習活動、スポーツ活動、趣味や娯楽などのグループ活動	 14.5%	 18.9%
P T A ・子ども会などの青少年育成活動	 6.2%	 17.3%
青年団体・女性団体・高齢者団体などの活動	 6.0%	 5.5%
民生委員やボランティアなどの社会活動	 6.8%	 4.2%
県・市の審議会・委員会の委員	2.2%	0.4%
消費者団体・生活協同組合など消費者活動	0.8%	0.6%
その他の社会活動など	 4.1%	 3.0%
いずれも参加していない	 56.5%	 42.9%
無回答	1.2%	0.0%

性別にみると、「いずれの社会活動にも参加していない」割合は女性の方が 22.2 ポイント高くなっています。参加している活動をみると、「自治会・住民自治協議会などの地域活動」への参加率は男性が 39.3%と圧倒的に高く、女性を 23.5 ポイント上回っています。また、「生涯学習活動、スポーツ活動、趣味や娯楽などのグループ活動」も男性の方が 9.5 ポイント高くなっています。

性別

	男性	女性	その他
自治会・住民自治協議会などの地域活動	39.3%	15.8%	33.3%
生涯学習活動、スポーツ活動、趣味や娯楽などのグループ活動	22.8%	13.3%	0.0%
P T A ・子ども会などの青少年育成活動	17.6%	16.6%	33.3%
青年団体・女性団体・高齢者団体などの活動	6.3%	4.2%	33.3%
民生委員やボランティアなどの社会活動	3.6%	4.7%	33.3%
県・市の審議会・委員会の委員	0.6%	0.3%	0.0%
消費者団体・生活協同組合など消費者活動	0.6%	0.6%	0.0%
その他の社会活動など	3.8%	1.9%	0.0%
いずれも参加していない	34.0%	56.2%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%

男性【n=527】、女性【n=361】、その他【n=3】

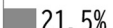
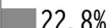
問 16 問 15 で「自治会・住民自治協議会などの地域活動」に○印をつけた方におたずねします。
その組織内で、意思決定に関わる役職(会長・役員など)に就いていますか。(○は 1 つ)
【n=265】

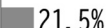
組織内で、意思決定に関わる役職(会長・役員など)に就いているかどうかについては、「役職に就いていない」が 78.5%を占めており、「役職に就いている」は 21.5%となっています。

前回調査と比較すると、「役職に就いていない」が 1.7 ポイント増加しました。

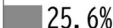
市民調査と比較すると、「役職に就いている」は市民より 11.7 ポイント低くなっています。

性別にみると、「役職に就いている」は男性が圧倒的に高く、女性を 18.6 ポイント上回っています。

	2024年	2019年
役職に就いている	 21.5%	 22.8%
役職に就いていない	 78.5%	 76.8%
無回答	0.0%	0.4%

	市民	市職員
役職に就いている	 33.2%	 21.5%
役職に就いていない	 64.7%	 78.5%
無回答	2.1%	0.0%

性別

	男性	女性	その他
役職に就いている	 25.6%	 7.0%	0.0%
役職に就いていない	 74.4%	 93.0%	 100.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%

男性【n=207】、女性【n=57】、その他【n=1】

問 17 問 15 で「いずれも参加していない」に○印をつけた方におたずねします。
その理由は何ですか。次の中から選んでください。(○はいくつでも)【n=382】

社会活動に参加していない理由については、「仕事が忙しく余裕がない」が 37.7%で最も高く、「興味がない」が 32.5%、「参加するきっかけがつかめない」が 23.6%で続いています。

前回調査との比較については、「知識や能力の面で不安がある」の項目が 2024 年調査より新たに追加した項目のため、比較していません。

	2024年	2019年
仕事が忙しく余裕がない	 37.7%	 35.5%
興味がない	 32.5%	 32.2%
参加するきっかけがつかめない	 23.6%	 26.4%
人間関係がわずらわしい	 20.7%	 26.0%
家事・育児・子どもの教育が忙しくて余裕がない	 18.1%	 16.5%
どんな活動があるのかよくわからない	 18.1%	 16.5%
知識や能力の面で不安がある	 8.4%	
体が丈夫でない	 7.3%	 7.0%
高齢者や病人の世話がある	 3.7%	 4.5%
活動に経費がかかる	 2.1%	 3.3%
家族の理解・協力がでない	 1.3%	 0.8%
その他	 6.3%	 7.0%
無回答	 0.0%	 2.9%

市民調査と比較すると、「仕事が忙しく余裕がない」が 8.4 ポイント、「家事・育児・子どもの教育が忙しくて余裕がない」が 7.9 ポイント、「人間関係がわずらわしい」が 3.5 ポイント、それぞれ市民を上回っています。

	市民	市職員
仕事が忙しく余裕がない	 29.3%	 37.7%
興味がない	 31.2%	 32.5%
参加するきっかけがつかめない	 24.4%	 23.6%
人間関係がわずらわしい	 17.2%	 20.7%
家事・育児・子どもの教育が忙しくて余裕がない	 10.2%	 18.1%
どんな活動があるのかよくわからない	 25.3%	 18.1%
知識や能力の面で不安がある	 13.0%	 8.4%
体が丈夫でない	 11.9%	 7.3%
高齢者や病人の世話がある	 6.6%	 3.7%
活動に経費がかかる	 2.5%	 2.1%
家族の理解・協力がでない	 1.5%	 1.3%
その他	 10.2%	 6.3%
無回答	 1.3%	 0.0%

性別にみると、「興味がない」割合は男性が 38.0%と女性を 10.4 ポイント上回っており、男性の方が社会活動に対して関心が低い傾向があります。また、「活動に経費がかかる」(2.4 ポイント)、「参加するきっかけがつかめない」(2.9 ポイント)などでも女性を上回っています。一方、「仕事が忙しく余裕がない」は女性が 44.3%と、男性を 14.1 ポイント上回っています。さらに、「どんな活動があるのかよくわからない」も女性が男性を 7.7 ポイント上回っています。

性別

	男性	女性	その他
仕事が忙しく余裕がない	30.2%	44.3%	0.0%
興味がない	38.0%	27.6%	0.0%
参加するきっかけがつかめない	25.1%	22.2%	0.0%
人間関係がわずらわしい	19.6%	21.7%	0.0%
家事・育児・子どもの教育が忙しくて余裕がない	17.3%	18.7%	0.0%
どんな活動があるのかよくわからない	14.0%	21.7%	0.0%
知識や能力の面で不安がある	8.9%	7.9%	0.0%
体が丈夫でない	3.4%	10.8%	0.0%
高齢者や病人の世話がある	3.9%	3.4%	0.0%
活動に経費がかかる	3.4%	1.0%	0.0%
家族の理解・協力がでない	0.6%	2.0%	0.0%
その他	7.3%	5.4%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%

男性【n=179】、女性【n=203】

問18 女性の場合はあなたが、男性の場合は妻・母親など身近な女性が、次のような役職につく（立候補する）ことを依頼された場合どうしますか。①～③の項目について、あてはまる回答の数字に1つだけ○をつけてください。【n=891】

女性が役職に就くことについて、「分野や時間的余裕など条件によって引き受ける（条件によって引き受けるよう勧める）」で最も割合が高かったのは、「①PTA、自治会、住民自治協議会などの役員」が37.3%、次いで、「②市の審議会・委員会などの委員」の31.0%となっています。一方、「断る（断るよう勧める）」で最も割合が高かったのは、「③市議会議員・県議会議員」の43.9%となっています。

前回調査と比較すると、「①PTA、自治会、住民自治協議会などの役員」では「引き受ける（引き受けるよう勧める）」割合が2.4ポイント、「②市の審議会・委員会などの委員」では2.2ポイント、「③市議会議員・県議会議員」では3.4ポイント増加しました。「分野や時間的余裕など条件によって引き受ける」割合は、「③市議会議員・県議会議員」では2.0ポイント増加しました。「家族など身近な者に相談してから決める」割合は、「①PTA、自治会、住民自治協議会などの役員」では6.2ポイント、「②市の審議会・委員会などの委員」では3.1ポイント、「③市議会議員・県議会議員」では2.2ポイント増加しました。一方、「断る（断るよう勧める）」割合は、「②市の審議会・委員会などの委員」では2.2ポイント増加しました。

市民調査と比較すると、「分野や時間的余裕など条件によって引き受ける」割合は、「①PTA、自治会、住民自治協議会などの役員」では10.4ポイント、「②市の審議会・委員会などの委員」では14.8ポイント、「③市議会議員・県議会議員」では7.6ポイント、市民より高く、市職員の方が条件付きなら引き受ける割合が高くなっています。また、「引き受ける（引き受けるよう勧める）」割合も、いずれの役職でも、市職員の方が積極的に引き受ける割合がやや高くなっています。一方、「断る（断るよう勧める）」の割合は、いずれの役職でも市民の方が10ポイント以上高くなっています。

		引き受ける (引き受ける よう勧める)	分野や時間的 余裕など条件 によって引き 受ける	家族など身近 な者に相談し てから決める	断る(断るよ う勧める)	わからない	無回答
問18① P T A、自治会、住民自治協議会などの役員	2024年	15.6%	37.3%	26.6%	12.2%	8.3%	0.0%
	2019年	13.2%	43.4%	20.4%	11.4%	9.0%	2.6%
問18② 市の審議会・委員会などの委員	2024年	11.6%	31.0%	23.8%	22.6%	11.1%	0.0%
	2019年	9.4%	33.3%	20.7%	20.4%	13.1%	3.0%
問18問19③ 市議会議員・県議会議員	2024年	8.1%	13.6%	21.5%	43.9%	12.9%	0.0%
	2019年	4.7%	11.6%	19.3%	46.6%	14.9%	2.9%

		引き受ける (引き受ける よう勧める)	分野や時間的 余裕など条件 によって引き 受ける	家族など身近 な者に相談し てから決める	断る(断るよ う勧める)	わからない	無回答
問18① P T A、自治会、 住民自治協議 会などの役員	市民	10.1%	26.9%	20.3%	27.1%	11.3%	4.3%
	市職員	15.6%	37.3%	26.6%	12.2%	8.3%	0.0%
問18② 市の 審議会・委員 会などの委員	市民	4.4%	16.2%	19.3%	40.1%	13.6%	6.4%
	市職員	11.6%	31.0%	23.8%	22.6%	11.1%	0.0%
問18問19③ 市議会議員・ 県議会議員	市民	3.1%	6.0%	14.2%	54.7%	15.2%	6.7%
	市職員	8.1%	13.6%	21.5%	43.9%	12.9%	0.0%

性別にみると、「引き受ける（引き受けるよう勧める）」割合は、いずれの役職も男性の方が高くなっています。一方、「断る（断るよう勧める）」割合は、いずれの役職も女性の方が圧倒的に高く、「③市議会議員・県議会議員では」37.8ポイント、「②市の審議会・委員会などの委員」では19.3ポイント、「①P T A、自治会、住民自治協議会などの役員」では13.4ポイント、それぞれ男性を上回っています。

性別

		引き受ける (引き受けるよ う勧める)	家族など身近 な者に相談し てから決める	分野や時間的 余裕など条件 によって引き 受ける	断る(断るよ う勧める)	わからない	無回答
問18① P T A、自治会、 住民自治協議 会などの役員	男性	21.3%	27.3%	34.3%	6.8%	10.2%	0.0%
	女性	7.5%	25.2%	41.8%	20.2%	5.3%	0.0%
	その他	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%
問18② 市の 審議会・委員 会などの委員	男性	16.9%	24.9%	30.7%	14.8%	12.7%	0.0%
	女性	3.6%	22.2%	31.6%	34.1%	8.6%	0.0%
	その他	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%
問18問19③ 市議会議員・ 県議会議員	男性	12.5%	27.9%	16.5%	28.7%	14.4%	0.0%
	女性	1.7%	12.2%	9.1%	66.5%	10.5%	0.0%
	その他	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%

男性【n=527】、女性【n=361】、その他【n=3】

年齢別にみると、「引き受ける（引き受けるよう勧める）」割合は、いずれの役職も 40～50 代が比較的高い値となっています。「分野や時間的余裕など条件によって引き受ける」割合は、「①PTA、自治会、住民自治協議会などの役員」は 30 代以上で高く、特に 30～40 代では約 4 割となっています。「②市の審議会・委員会などの委員」では 40～50 代で約 3 割なっています。「家族など身近な者に相談してから決める」割合は、いずれの役職も 18～29 歳、30 代の若年層で高くなっています。一方、「断る（断るよう勧める）」割合は、「市議会・県議会議員」ではいずれの年代でも最も高くなっていますが、60 歳以上が 56.8%で最も高くなっています。

年齢別

		引き受ける（ 引き受けるよう 勧める）	家族など身近 な者に相談し てから決める	分野や時間的 余裕など条件 によって引き 受ける	断る（断るよ う勧める）	わからない	無回答
問18① P T A、自治会、住民自治協議会などの役員	18～29歳	9.0%	32.6%	28.1%	23.6%	6.7%	0.0%
	30～39歳	5.9%	31.6%	39.0%	13.2%	10.3%	0.0%
	40～49歳	17.7%	23.9%	39.7%	10.6%	8.1%	0.0%
	50～59歳	21.5%	24.0%	37.1%	8.4%	9.1%	0.0%
	60歳以上	11.1%	30.9%	35.8%	17.3%	4.9%	0.0%
問18② 市の審議会・委員会などの委員	18～29歳	6.7%	24.7%	25.8%	33.7%	9.0%	0.0%
	30～39歳	6.6%	33.1%	27.2%	22.1%	11.0%	0.0%
	40～49歳	13.5%	20.3%	32.3%	20.6%	13.2%	0.0%
	50～59歳	14.2%	24.4%	33.5%	18.5%	9.5%	0.0%
	60歳以上	8.6%	18.5%	29.6%	32.1%	11.1%	0.0%
問18問19③ 市議会議員・県議会議員	18～29歳	5.6%	27.0%	19.1%	39.3%	9.0%	0.0%
	30～39歳	6.6%	27.2%	16.9%	34.6%	14.7%	0.0%
	40～49歳	9.4%	20.0%	14.5%	43.5%	12.6%	0.0%
	50～59歳	9.8%	20.0%	10.9%	46.5%	12.7%	0.0%
	60歳以上	2.5%	17.3%	7.4%	56.8%	16.0%	0.0%

18～29 歳 【n=89】、30～39 歳 【n=136】、40～49 歳 【n=310】、50～59 歳 【n=275】、60 歳以上 【n=81】

問 19 今後、女性・男性関係なく家事、子育てや教育、介護および地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から選んでください。
(○は3つまで)【n=891】

女性・男性関係なく家事、子育てや教育、介護および地域活動などに積極的に参加していくために必要なことについては、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が 41.2%で最も高く、「仕事中心という社会全体の仕組みを改めること」が 34.6%、「労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイム、休暇制度を普及させること」が 33.6%で続いています。

前回調査との比較については、「企業や団体のトップが、男女ともに働きやすい環境づくりに取り組む考えを示すこと」の項目が 2024 年調査より新たに追加した項目のため、比較していません。

	2024年	2019年
男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	41.2%	46.1%
仕事中心という社会全体の仕組みを改めること	34.6%	36.8%
労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイム、休暇制度を普及させること	33.6%	37.7%
企業や団体のトップが、男女ともに働きやすい環境づくりに取り組む考えを示すこと	32.3%	
夫婦の間で家事などの分担や協力することを十分に話し合うこと	25.1%	27.2%
子どもの病気や急な残業に対応できる保育施設・サービスが整備されること	24.4%	27.1%
男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること	16.5%	17.7%
男性が、家事・育児・介護などに参加することに対する抵抗感をなくすこと	14.5%	18.6%
子どもに対し家事などを男女で分担するようしつけや育て方をしないこと	7.4%	9.1%
妻が、夫に経済力や出世を求めないこと	6.8%	5.6%
男性の男女共同参画に対する関心を高めること	6.6%	12.3%
仕事と家庭の両立などの問題について相談できる窓口を設けること	3.8%	3.7%
その他	3.1%	2.7%
わからない	3.4%	4.1%
無回答	0.0%	3.3%

市民調査と比較すると、「仕事中心という社会全体の仕組みを改めること」が12.2ポイント、「労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイム、休暇制度を普及させること」が8.1ポイント、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が5.5ポイント、それぞれ市民を上回っています。

	市民	市職員
男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	35.7%	41.2%
仕事中心という社会全体の仕組みを改めること	22.4%	34.6%
労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイム、休暇制度を普及させること	25.5%	33.6%
企業や団体のトップが、男女ともに働きやすい環境づくりに取り組む考えを示すこと	32.7%	32.3%
夫婦の間で家事などの分担や協力することを十分に話し合うこと	27.4%	25.1%
子どもの病気や急な残業に対応できる保育施設・サービスが整備されること	29.7%	24.4%
男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること	16.9%	16.5%
男性が、家事・育児・介護などに参加することに対する抵抗感をなくすこと	21.7%	14.5%
子どもに対し家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をしないこと	6.6%	7.4%
妻が、夫に経済力や出世を求めないこと	5.4%	6.8%
男性の男女共同参画に対する関心を高めること	9.0%	6.6%
仕事と家庭の両立などの問題について相談できる窓口を設けること	5.3%	3.8%
その他	3.6%	3.1%
わからない	5.0%	3.4%
無回答	4.4%	0.0%

性別にみると、「男女の役割分担に関する社会通念や慣習、しきたりを見直すこと」が男女ともに最も重要と考えられています。次いで、女性では「労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイム、休暇制度の普及」が 39.9%と、男性より 10.7 ポイント高い結果となりました。一方、男性では「仕事中心の社会構造を見直すこと」が 34.9%で続いており、女性も 34.1%と同様の関心を示しています。また、女性は「男性が家事・育児・介護に積極的に参加することへの抵抗感をなくすこと」が 12.4 ポイント、「労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイム、休暇制度を普及させること」が 10.7 ポイント、それぞれ男性を上回っており、男性より重視していることがわかりました。

性別

	男性	女性	その他
男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	41.7%	40.7%	0.0%
仕事中心という社会全体の仕組みを改めること	34.9%	34.1%	33.3%
労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイム、休暇制度を普及させること	29.2%	39.9%	33.3%
企業や団体のトップが、男女ともに働きやすい環境づくりに取り組む考えを示すこと	28.3%	38.2%	33.3%
夫婦の間で家事などの分担や協力することを十分に話し合うこと	24.3%	26.6%	0.0%
子どもの病気や急な残業に対応できる保育施設・サービスが整備されること	22.2%	27.1%	66.7%
男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること	17.5%	15.2%	0.0%
男性が、家事・育児・介護などに参加することに対する抵抗感をなくすこと	9.5%	21.9%	0.0%
子どもに対し家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をしないこと	5.9%	9.7%	0.0%
妻が、夫に経済力や出世を求めないこと	9.1%	3.6%	0.0%
男性の男女共同参画に対する関心を高めること	8.5%	3.9%	0.0%
仕事と家庭の両立などの問題について相談できる窓口を設けること	3.0%	5.0%	0.0%
その他	4.4%	1.4%	0.0%
わからない	4.7%	1.4%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%

男性【n=527】、女性【n=361】、その他【n=3】

5. 職業生活について

問 20 女性が職業を持つことについてあなたはどのように思いますか。次の中から選んでください。
(○は1つ)【n=891】

女性の就業に関する意識については、「子どもができてもずっと職業を持ち続ける方がよい」が76.9%で圧倒的に高く、女性が出産後も仕事を継続することが一般的な考えになりつつあります。次いで、「その他」が9.3%、「子どもができ辞め、成長したら再び職業を持つ方がよい」が6.1%で続いています。

前回調査と比較すると、「子どもができてもずっと職業を持ち続ける方がよい」が1.4ポイント増加し、「子どもができ辞め、成長したら再び職業を持つ方がよい」が1.5ポイント減少しましたが、大きな変化はみられません。

	2024年	2019年
子どもができてもずっと職業を持ち続ける方がよい	 76.9%	 75.5%
子どもができ辞め、成長したら再び職業を持つ方がよい	 6.1%	 7.6%
子どもができるまでは、職業を持つ方がよい	0.8%	0.6%
結婚するまでは、職業を持つ方がよい	0.3%	0.5%
女性は職業を持たない方がよい	0.2%	0.0%
その他	 9.3%	 8.4%
わからない	 6.4%	 5.6%
無回答	0.0%	1.8%

市民調査と比較すると、「子どもができてもずっと職業を持ち続ける方がよい」は市民を 15.3 ポイント上回っています。一方、「子どもができるまでは、職業を持つ方がよい」は市民より 14.7 ポイント低い結果となりました。

	市民	市職員
子どもができてもずっと職業を持ち続ける方がよい	 61.6%	 76.9%
子どもができ辞め、成長したら再び職業を持つ方がよい	 20.8%	 6.1%
子どもができるまでは、職業を持つ方がよい	 2.9%	 0.8%
結婚するまでは、職業を持つ方がよい	 2.0%	 0.3%
女性は職業を持たない方がよい	 0.1%	 0.2%
その他	 6.0%	 9.3%
わからない	 4.3%	 6.4%
無回答	 2.3%	 0.0%

性別にみると、男女ともに、「子どもができてもずっと職業を持ち続ける方がよい」が最も高く、女性が男性を 2.8 ポイント上回っていますが、全体的に性差がほぼありません。

性別

	男性	女性	その他
子どもができてもずっと職業を持ち続ける方がよい	 75.9%	 78.7%	 33.3%
子どもができ辞め、成長したら再び職業を持つ方がよい	 6.5%	 5.5%	0.0%
子どもができるまでは、職業を持つ方がよい	0.9%	0.6%	0.0%
結婚するまでは、職業を持つ方がよい	0.6%	0.0%	0.0%
女性は職業を持たない方がよい	0.2%	0.0%	 33.3%
その他	 9.5%	 9.1%	0.0%
わからない	 6.5%	 6.1%	 33.3%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%

男性【n=527】、女性【n=361】、その他【n=3】

問 21 女性が職業を持つうえで障壁になっているのは何だと思いますか。次の中から主なものを選んでください。(〇は3つまで)【n=891】

女性が職業を持つうえで障壁になっているものについては、「家事、育児を女性が担わなければならないこと」が 31.2%で最も高く、「家族の協力や理解などが得られないこと」が 30.5%、「育児休業など制度の条件が整っていないこと」が 29.2%で続いています。

前回調査との比較については、「家事、育児を女性が担わなければならないこと」の項目が 2024 年調査より新たに追加した項目のため、比較していません。

	2024年	2019年
家事、育児を女性が担わなければならないこと	31.2%	
家族の協力や理解などが得られないこと	30.5%	33.9%
育児休業など制度の条件が整っていないこと	29.2%	34.7%
勤務時間が長いこと	28.1%	29.5%
保育施設や介護施設などが整備されていないこと	22.2%	29.2%
配偶者の仕事の都合 (長時間労働・転勤) があること	22.0%	24.8%
男は仕事、女は家庭という 社会通念があること	18.4%	26.5%
職場内の配置・昇進などで 女性に対する偏見があること	12.6%	11.3%
病人、高齢者などの看護・ 介護を女性が担わなければ ならないこと	9.9%	18.3%
女性自身の職業に対する自 覚が足りないこと	8.0%	8.2%
その他	3.5%	4.1%
わからない	5.4%	3.5%
特になし	3.6%	3.5%
無回答	0.0%	2.7%

市民調査と比較すると、「勤務時間が長いこと」が7.2ポイント、「配偶者の仕事の都合（長時間労働・転勤）があること」が5.2ポイント、それぞれ市民を上回っています。一方、「病人、高齢者などの看護・介護を女性が担わなければならないこと」は11.9ポイント、「家事、育児を女性が担わなければならないこと」は8.8ポイント、「保育施設や介護施設などが整備されていないこと」は6.1ポイント、それぞれ市民より低い結果となりました。

	市民	市職員
家事、育児を女性が担わなければならないこと	40.0%	31.2%
家族の協力や理解などが得られないこと	29.8%	30.5%
育児休業など制度の条件が整っていないこと	26.9%	29.2%
勤務時間が長いこと	20.9%	28.1%
保育施設や介護施設などが整備されていないこと	28.3%	22.2%
配偶者の仕事の都合（長時間労働・転勤）があること	16.8%	22.0%
男は仕事、女は家庭という社会通念があること	19.8%	18.4%
職場内の配置・昇進などで女性に対する偏見があること	17.4%	12.6%
病人、高齢者などの看護・介護を女性が担わなければならないこと	21.8%	9.9%
女性自身の職業に対する自覚が足りないこと	6.5%	8.0%
その他	3.2%	3.5%
わからない	4.3%	5.4%
特になし	3.6%	3.6%
無回答	1.8%	0.0%

性別にみると、男性では「育児休業など制度の条件が整っていないこと」が 32.3%と最も高く、女性を 7.4 ポイント上回っています。女性では「家事、育児を女性が担わなければならないこと」が 49.9%と圧倒的に高く、男性を 31.5 ポイント上回っています。また、女性では「病人、高齢者などの看護・介護を女性が担わなければならないこと」が 18.3%と、男性を 14.1 ポイント上回っています。

性別

	男性	女性	その他
家事、育児を女性が担わなければならないこと	18.4%	49.9%	33.3%
家族の協力や理解などが得られないこと	28.1%	34.3%	0.0%
育児休業など制度の条件が整っていないこと	32.3%	24.9%	0.0%
勤務時間が長いこと	26.4%	30.7%	0.0%
保育施設や介護施設などが整備されていないこと	22.4%	21.9%	33.3%
配偶者の仕事の都合（長時間労働・転勤）があること	23.5%	19.9%	0.0%
男は仕事、女は家庭という社会通念があること	18.4%	18.6%	0.0%
職場内の配置・昇進などで女性に対する偏見があること	13.1%	11.9%	0.0%
病人、高齢者などの看護・介護を女性が担わなければならないこと	4.2%	18.3%	0.0%
女性自身の職業に対する自覚が足りないこと	7.4%	8.9%	0.0%
その他	4.7%	1.7%	0.0%
わからない	5.9%	4.4%	33.3%
特になし	5.1%	1.4%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%

男性【n=527】、女性【n=361】、その他【n=3】

年齢別に見ると、「家族の協力や理解などが得られないこと」と考える割合は40代以上で高く、30%を超えています。一方、18～39歳の若年層では「育児休業など制度の条件が整っていないこと」や「家事、育児を女性が担わなければならないこと」が大きな課題として挙げられています。また、「病人、高齢者などの看護・介護を女性が担わなければならないこと」は60歳以上で24.7%と特に高なっています。

年齢別

	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
家事、育児を女性が担わなければならないこと	40.4%	30.1%	27.7%	31.6%	34.6%
家族の協力や理解などが得られないこと	28.1%	18.4%	34.8%	32.0%	32.1%
育児休業など制度の条件が整っていないこと	38.2%	44.9%	23.5%	24.0%	32.1%
勤務時間が長いこと	25.8%	29.4%	27.1%	32.0%	18.5%
保育施設や介護施設などが整備されていないこと	15.7%	28.7%	17.7%	23.3%	32.1%
配偶者の仕事の都合（長時間労働・転勤）があること	16.9%	25.7%	23.5%	22.5%	13.6%
男は仕事、女は家庭という社会通念があること	14.6%	16.9%	21.0%	17.5%	18.5%
職場内の配置・昇進などで女性に対する偏見があること	16.9%	11.8%	12.3%	10.5%	17.3%
病人、高齢者などの看護・介護を女性が担わなければならないこと	6.7%	5.1%	5.2%	14.2%	24.7%
女性自身の職業に対する自覚が足りないこと	3.4%	12.5%	5.8%	9.8%	7.4%
その他	2.2%	4.4%	4.2%	3.3%	1.2%
わからない	5.6%	3.7%	6.1%	4.7%	7.4%
特になし	5.6%	2.9%	4.2%	2.9%	2.5%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

18～29歳【n=89】、30～39歳【n=136】、40～49歳【n=310】、50～59歳【n=275】、60歳以上【n=81】

問 22 あなたが働いているところでは、次のことについて女性と男性は平等だと思いますか。

①～⑪の項目について、あてはまる回答の数字に 1 つだけ○をつけてください。【n=891】

職場における男女の地位の平等について、多くの項目で「平等になっている」と感じる割合が 65%以上に達しており、男女平等の意識が高まっていることが伺えます。特に、「⑩教育・研修を受ける機会」(92.1%)、「⑥有給休暇の取得」(87.8%)、「⑪定年まで勤めること」(86.4%)、「③福利厚生」(85.3%)などの制度面では、平等だと認識する割合が高い傾向にあります。一方で、「④昇進・昇格」(13.8%)では、『男性の方が優遇』と感じる人が多く、「⑦異動・転勤」(10.8%)では『女性の方が優遇』と感じる人多くなっています。

前回調査と比較すると、「平等になっている」と答えた割合が増加した項目として、「④昇進・昇格」(5.4 ポイント増加)、「⑤能力評価」(1.6 ポイント増加)、「⑥有給休暇の取得」(1.0 ポイント増加)、「⑩教育・研修を受ける機会」(1.8 ポイント増加)、「⑪定年まで勤めること」(3.0 ポイント増加)などがあります。また、『男性の方が優遇』と感じる割合が減少した項目としては、「④昇進・昇格」(9.6 ポイント減少)、「⑤能力評価」(3.2 ポイント減少)などがあります。一方で、「①採用時の条件」では、『男性の方が優遇』と感じる割合が 2.4 ポイント増加しており、依然として賃金格差が課題として残っていることが示唆されます。さらに、『女性の方が優遇』と感じる割合が増加した項目としては、「①採用時の条件」(4.9 ポイント増加)、「⑦異動・転勤」(3.3 ポイント増加)、「⑧希望職種につく機会」(4.0 ポイント増加)などがあります。

※「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「女性の方が優遇されている」を合わせると、『女性の方が優遇』、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「男性の方が優遇されている」を合わせると、『男性の方が優遇』と記載します。

		女性の方が 優遇されて いる	どちらかと いえば女性 の方が優遇 されている	平等になっ ている	どちらかと いえば男性 の方が優遇 されている	男性の方が 優遇されて いる	わからない	無回答
問22① 採用時の条件	2024年	2.0%	3.5%	 78.0%	5.9%	0.0%	8.6%	1.9%
	2019年	0.0%	0.6%	 88.3%	2.9%	0.6%	6.1%	1.5%
問22② 賃金	2024年	0.4%	0.3%	 87.2%	3.8%	0.0%	6.7%	1.5%
	2019年	0.3%	0.5%	 89.2%	3.3%	1.1%	4.1%	1.5%
問22③ 福利厚生	2024年	2.1%	5.8%	 85.3%	1.0%	0.0%	5.5%	0.2%
問22④ 昇進・昇格	2024年	1.3%	1.8%	 69.8%	13.8%	0.0%	10.4%	2.8%
	2019年	0.6%	0.9%	 64.4%	20.4%	3.0%	9.0%	1.7%
問22⑤ 能力評価	2024年	0.9%	1.6%	 77.7%	7.3%	0.0%	10.8%	1.8%
	2019年	0.3%	1.1%	 76.1%	8.7%	1.8%	10.2%	1.8%
問22⑥ 有給 休暇の取得	2024年	0.8%	5.6%	 87.8%	0.6%	0.0%	5.2%	0.1%
	2019年	0.8%	5.8%	 86.8%	0.2%	0.3%	4.6%	1.7%
問22⑦ 異動・転勤	2024年	2.7%	8.1%	 66.9%	6.1%	0.0%	13.6%	2.7%
	2019年	1.1%	6.4%	 74.4%	3.0%	0.9%	12.5%	1.7%
問22⑧ 希望 職種につく機 会	2024年	2.4%	4.2%	 67.2%	7.4%	0.0%	16.9%	1.9%
	2019年	0.3%	2.3%	 71.4%	4.7%	1.1%	18.3%	2.0%
問22⑨ 正規 雇用になる機 会	2024年	0.9%	0.8%	 78.5%	5.6%	0.0%	13.1%	1.1%
問22⑩ 教育・ 研修を受ける 機会	2024年	0.7%	0.3%	 92.1%	1.8%	0.0%	4.7%	0.3%
	2019年	0.5%	0.6%	 90.3%	2.3%	0.3%	4.6%	1.5%
問22⑪ 定年 まで勤めるこ と	2024年	0.7%	0.0%	 86.4%	6.2%	0.0%	5.9%	0.8%
	2019年	0.3%	0.3%	 83.4%	6.4%	1.4%	6.4%	1.8%

市民調査と比較すると、「平等になっている」と回答した割合は、すべての項目で市職員の方が高くなっています。特に、「①採用時の条件」(29.4 ポイント差)、「②賃金」(43.2 ポイント差)、「④昇進・昇格」(35.4 ポイント差)、「⑤能力評価」(30.0 ポイント差)、「⑦異動・転勤」(29.3 ポイント差)、「⑩教育・研修を受ける機会」(32.8 ポイント差)などでは、約 30 ポイント以上の差が見られ、市職員の方がより平等と感じている傾向が顕著です。

一方で、『男性の方が優遇』と感じる割合は市民の方が高く、「②賃金」(28.6 ポイント差)、「④昇進・昇格」(23.0 ポイント差)などでは 20 ポイント以上の開きがあります。これは、市民と市職員の間で職場環境に対する認識の違いが大きいことを示しており、特に民間企業では依然として男女格差を感じる人が多いことがうかがえます。

		女性の方が 優遇されて いる	どちらか といえば女性 の方が優遇 されている	平等になっ ている	どちらか といえば男性 の方が優遇 されている	男性の方が 優遇されて いる	わからない	無回答
問22① 採用時の条件	市民	1.3%	2.9%	48.6%	14.7%	5.5%	18.6%	8.3%
	市職員	2.0%	3.5%	78.0%	5.9%	0.0%	8.6%	1.9%
問22② 賃金	市民	0.6%	0.2%	44.0%	23.9%	8.5%	14.4%	8.5%
	市職員	0.4%	0.3%	87.2%	3.8%	0.0%	6.7%	1.5%
問22③ 福利厚生	市民	1.1%	1.3%	70.2%	2.8%	1.8%	12.5%	10.3%
	市職員	2.1%	5.8%	85.3%	1.0%	0.0%	5.5%	0.2%
問22④ 昇進・昇格	市民	0.7%	0.9%	34.4%	25.2%	11.6%	17.1%	9.9%
	市職員	1.3%	1.8%	69.8%	13.8%	0.0%	10.4%	2.8%
問22⑤ 能力評価	市民	0.7%	0.9%	47.7%	17.3%	5.9%	17.5%	9.9%
	市職員	0.9%	1.6%	77.7%	7.3%	0.0%	10.8%	1.8%
問22⑥ 有給 休暇の取得	市民	2.4%	3.5%	72.2%	2.0%	0.7%	9.9%	9.2%
	市職員	0.8%	5.6%	87.8%	0.6%	0.0%	5.2%	0.1%
問22⑦ 異動・転勤	市民	2.2%	12.5%	37.6%	5.2%	2.8%	29.1%	10.7%
	市職員	2.7%	8.1%	66.9%	6.1%	0.0%	13.6%	2.7%
問22⑧ 希望 職種につく機 会	市民	1.3%	3.1%	41.1%	11.6%	3.5%	28.5%	10.9%
	市職員	2.4%	4.2%	67.2%	7.4%	0.0%	16.9%	1.9%
問22⑨ 正規 雇用になる機 会	市民	0.6%	0.6%	50.6%	10.9%	6.1%	21.0%	10.3%
	市職員	0.9%	0.8%	78.5%	5.6%	0.0%	13.1%	1.1%
問22⑩ 教育・ 研修を受ける 機会	市民	0.6%	0.9%	59.3%	8.8%	3.3%	17.3%	9.8%
	市職員	0.7%	0.3%	92.1%	1.8%	0.0%	4.7%	0.3%
問22⑪ 定年 まで勤めるこ と	市民	0.6%	0.6%	62.2%	8.1%	2.9%	15.5%	10.1%
	市職員	0.7%	0.0%	86.4%	6.2%	0.0%	5.9%	0.8%

性別にみると、男女ともに平等になっていると感じる割合が高く、男性の方が「平等になっている」と感じる割合が高い項目は、「②賃金」（6.4 ポイント差）、「④昇進・昇格」（13.8 ポイント差）、「⑤能力評価」（12.1 ポイント差）などとなっています。一方、「⑦異動・転勤」については、女性が男性を 11.2 ポイント上回っています。女性の方が『男性の方が優遇』と感じる割合が高い項目は、「④昇進・昇格」（7.5 ポイント差）、「⑤能力評価」（6.8 ポイント差）などとなっています。

性別

		女性の方が 優遇されて いる	どちらか といえば女性 の方が優遇 されている	平等になっ ている	どちらか といえば男性 の方が優遇 されている	男性の方が 優遇されて いる	わからない	無回答
問22① 採用時の条件	男性	2.8%	4.2%	 77.0%	6.5%	0.0%	7.2%	2.3%
	女性	0.6%	2.5%	 79.5%	5.3%	0.0%	10.8%	1.4%
	その他	33.3%	0.0%	 66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
問22②	男性	0.6%	0.4%	 89.8%	2.7%	0.0%	5.5%	1.1%
	女性	0.3%	0.3%	 83.4%	5.5%	0.0%	8.6%	1.9%
	その他	0.0%	0.0%	 100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
問22③ 福利厚生	男性	3.2%	6.3%	 84.8%	0.8%	0.0%	4.6%	0.4%
	女性	0.6%	5.3%	 85.9%	1.4%	0.0%	6.9%	0.0%
	その他	0.0%	0.0%	 100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
問22④ 昇進・昇格	男性	2.1%	2.7%	 75.3%	10.8%	0.0%	7.6%	1.5%
	女性	0.3%	0.6%	 61.5%	18.3%	0.0%	14.7%	4.7%
	その他	0.0%	0.0%	 100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
問22⑤ 能力評価	男性	1.5%	2.7%	 82.5%	4.6%	0.0%	8.2%	0.6%
	女性	0.0%	0.0%	 70.4%	11.4%	0.0%	14.7%	3.6%
	その他	0.0%	0.0%	 100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
問22⑥ 有給 休暇の取得	男性	1.1%	6.6%	 86.7%	0.4%	0.0%	4.9%	0.2%
	女性	0.3%	4.2%	 89.2%	0.8%	0.0%	5.5%	0.0%
	その他	0.0%	0.0%	 100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
問22⑦ 異動・転勤	男性	4.0%	10.8%	 62.2%	7.8%	0.0%	11.2%	4.0%
	女性	0.8%	4.2%	 73.4%	3.6%	0.0%	17.2%	0.8%
	その他	0.0%	0.0%	 100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
問22⑧ 希望 職種につく機 会	男性	3.8%	5.7%	 67.6%	8.7%	0.0%	12.3%	1.9%
	女性	0.3%	1.9%	 66.8%	5.5%	0.0%	23.8%	1.7%
	その他	0.0%	0.0%	 66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%
問22⑨ 正規 雇用になる機 会	男性	1.3%	0.8%	 78.9%	6.3%	0.0%	11.6%	1.1%
	女性	0.3%	0.8%	 77.6%	4.7%	0.0%	15.5%	1.1%
	その他	0.0%	0.0%	 100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
問22⑩ 教育・ 研修を受ける 機会	男性	0.9%	0.6%	 91.8%	1.7%	0.0%	4.9%	0.0%
	女性	0.3%	0.0%	 92.5%	1.9%	0.0%	4.4%	0.8%
	その他	0.0%	0.0%	 100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
問22⑪ 定年 まで勤めるこ と	男性	0.9%	0.0%	 86.9%	6.3%	0.0%	5.1%	0.8%
	女性	0.3%	0.0%	 85.6%	6.1%	0.0%	7.2%	0.8%
	その他	0.0%	0.0%	 100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

男性【n=527】、女性【n=361】、その他【n=3】

6. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

問 23 ワーク・ライフ・バランスに関して、現在あなたの思うような仕事と生活のバランスは実現できていますか。次の中から選んでください。（○は1つ）【n=891】

ワーク・ライフ・バランスの実現状況については、「もっと個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）を優先したい」が 32.8%で最も高く、「実現できている」が 28.5%、「もっと家庭生活を優先したい」が 28.2%が続いています。

市民調査と比較すると、「もっと家庭生活を優先したい」は 13.6 ポイント、「もっと個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）を優先したい」は 9.3 ポイント、それぞれ市民を上回っています。

	市民	市職員
実現できている	 30.6%	 28.5%
もっと仕事を優先したい	 3.1%	 1.9%
もっと家庭生活を優先したい	 14.6%	 28.2%
もっと個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）を優先したい	 23.5%	 32.8%
その他	 3.7%	 0.4%
わからない	 19.0%	 7.6%
無回答	 5.4%	 0.6%

性別でみると、男性の約3割がワーク・ライフ・バランスを「実現できている」と感じており、女性を4.6ポイント上回っています。また、「もっと個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）を優先したい」と考える人は男女ともに3割以上おり、女性の方が2.9ポイント高くなっています。「もっと家庭生活を優先したい」と回答した割合も、女性が男性を5.3ポイント上回っており、やや高い傾向にあります。

性別

	男性	女性	その他
実現できている	 30.4%	 25.8%	 33.3%
もっと仕事を優先したい	1.9%	1.9%	0.0%
もっと家庭生活を優先したい	 26.0%	 31.3%	 33.3%
もっと個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）を優先したい	 31.7%	 34.6%	0.0%
その他	0.6%	0.3%	0.0%
わからない	 8.9%	 5.5%	 33.3%
無回答	0.6%	0.6%	0.0%

男性【n=527】、女性【n=361】、その他【n=3】

問 24 女性と男性がともにワーク・ライフ・バランスを実現するためには、何が重要だと思いますか。次の中から選んでください。(〇は3つまで)【n=891】

ワーク・ライフ・バランスを実現するために重要だと考えることについては、「労働時間を縮減するための法制度の強化」が 47.5%で最も高く、次いで「ワーク・ライフ・バランスに取り組む企業への助成」(26.0%)、「育児・介護休業の取得を促すための法制度の強化」(25.9%)が続いています。

市民調査と比較すると、「労働時間を縮減するための法制度の強化」は 21.8 ポイント、「市民に対する意識啓発」は 8.2 ポイント、「在宅勤務などができるような環境の整備」は 6.9 ポイント、それぞれ市民を上回っています。特に労働時間の短縮に関する法整備の必要性については、市職員の方が強く意識していることがうかがえます。一方、「介護サービスなどの充実」は 13.5 ポイント、「保育サービスなどの子育て支援の充実」は 7.5 ポイント、それぞれ市民より低くなっています。

	市民	市職員
保育サービスなどの子育て支援の充実	32.5%	25.0%
介護サービスなどの充実	30.1%	16.6%
企業経営者に対する意識啓発	27.4%	27.2%
労働時間を縮減するための法制度の強化	25.7%	47.5%
育児・介護休業の取得を促すための法制度の強化	24.1%	25.9%
ワーク・ライフ・バランスに取り組む企業への助成	21.6%	26.0%
在宅勤務などができるような環境の整備	16.9%	23.8%
先進的な取り組みをしている企業の事例の情報提供	10.1%	11.4%
市民に対する意識啓発	8.3%	16.5%
特にない	4.4%	2.4%
その他	4.9%	4.4%
わからない	9.8%	4.8%
無回答	3.6%	0.0%

性別にみると、「労働時間を縮減するための法制度の強化」が男女ともに最も重視していますが、女性の方が男性より 6.5 ポイント高く、特に、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた労働時間の短縮を求める傾向が強いことが伺えます。次いで、男性では「企業経営者に対する意識啓発」が、女性では「育児・介護休業の取得を促すための法制度の強化」が続いています。「育児・介護休業の取得を促すための法制度の強化」については、女性が男性を 9.9 ポイント上回っています。また、「介護サービスなどの充実」は女性が男性を 10.2 ポイント上回っており、女性の関心が男性より大幅に高くなっています。

性別

	男性	女性	その他
保育サービスなどの子育て支援の充実	23.9%	26.9%	0.0%
介護サービスなどの充実	12.5%	22.7%	0.0%
企業経営者に対する意識啓発	27.3%	27.1%	0.0%
労働時間を縮減するための法制度の強化	45.0%	51.5%	0.0%
育児・介護休業の取得を促すための法制度の強化	22.0%	31.9%	0.0%
ワーク・ライフ・バランスに取り組む企業への助成	25.4%	26.9%	33.3%
在宅勤務などができるような環境の整備	21.4%	27.1%	33.3%
先進的な取り組みをしている企業の事例の情報提供	11.4%	11.6%	0.0%
市民に対する意識啓発	17.6%	14.7%	33.3%
その他	5.7%	2.5%	0.0%
わからない	5.7%	3.6%	0.0%
特にない	3.6%	0.3%	33.3%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%

男性【n=527】、女性【n=361】、その他【n=3】